

## 日本原子力学会 炉物理部会 第 60 回全体会議 議事録

日時： 2024 年 3 月 26 日（火） 12:05-12:55

場所：日本原子力学会 2024 年春の年会 L 会場(21 号館 4F 21-423)

参加者：40 名前後

### 【審議事項】

#### 1. 令和 5 年度決算と令和 6 年度予算について

資料 60-01、60-02 を用いて、財務小委員会担当幹事より、令和 5 年度決算と令和 6 年度予算案について報告され、承認された。

#### 2. 令和 6 年度運営小委員会について

資料 60-03 を用いて北田部会長より令和 6 年度の運営小委員会の体制案が紹介された。資料 60-03 の体制案に対して部会等運営委員会担当運営委員（任期 1 年）を多田 健一氏（JAEA）に変更する提案があり、この変更を加えた体制が承認された。

### 【報告事項】

#### 3. 2023 年臨界安全国際会議（ICNC2023）結果報告

資料 60-04 を用いて、JAEA 須山氏より、2023 年 10 月に実施された ICNC2023 について報告された。

#### 4. 日中韓炉物理国際会議 RPHA2023 の開催結果報告

資料 60-05 を用いて、名古屋大学遠藤先生より、2023 年 10 月に実施された RPHA2023 について報告された。また、2025 年に中国で開催予定の RPHA2025 について、当該年度炉物理部会長の参加依頼、炉物理部会員の積極的な発表検討についても要望があった。

C：日中韓の各部会レベルで RPHA 実施に関する覚書が交わされている。RPHA2023 が韓国での 2 回目の開催となったことから、日本での 2 回目の開催となる RPHA2027 は実施する方向で検討せざるを得ない。ビザの発行のために多大な労力を要すること等をふまえ、RPHA2027 をもって RPHA の開催を終了することも検討するべきである。また、RPHA の対応については「属人的」になっており、RPHA2025 は炉物理部会として組織的な対応ができるように体制強化を検討するべきである。

### 【審議事項】

#### 5. 第 55 回炉物理夏期セミナー開催計画

資料 60-06 を用いて、セミナー小委員会担当幹事より第 55 回炉物理夏期セミナーの開催計画について報告され、異論なく承認された。2024 年 9 月 24 日(火)~26 日(木)に、名古屋大

学にて開催される予定である。

C：今後、夏期セミナーでの宿泊先は参加者が確保することになるのか？

A：夏期セミナーの主催者が判断することとなる。ただし、近くにホテルがある会場であれば、主催者が宿泊先を提供する必要性は低くなる。

#### 6. 令和6年度部会企画セッション検討状況

資料 60-07 を用いて、学術交流小委員会担当幹事より、令和6年度の企画セッションについて案が紹介された。「レガシーシステムをどうするか？」をテーマとして検討している。

#### 【報告事項】

#### 7. 炉物理の研究（部会報）の準備状況

炉物理の研究（部会報）の準備状況が報告された。部会報(第76号)を準備しており、4月末にオンライン発行予定である。

C：年度毎の発行物であるため、年度内に発行すべきである。このようなことが常態化するのを強く危惧する。

C：現時点で準備できている記事を用いて公開したほうが良いのではないか。

#### 8. その他

須山氏(JAEA)より、炉物理実験データの保存活動を部会として実施する提案があった。JAEA やその他の機関が有する施設において、公開報告書に記載されることなく保管されている有用な実験データが数多くあるため、部会として公開のための活動を検討することとなった。

C：まずは活動方針や具体的な作業内容等を整理するため、炉物理部会内に検討ワーキンググループを立ち上げることが良い。

C：公開の可否を判断できる立場の人や情報アーカイブのノウハウを保有している人を加えて活動を実施したほうが良い。

#### 【配布資料】

資料 60-01	令和5年度 炉物理部会予算及び実績
資料 60-02	令和6年度 炉物理部会予算案
資料 60-03	2024年度(令和5年度) 炉物理部会運営小委員会委員（案）
資料 60-04	2023年臨界安全国際会議（ICNC2023）結果報告
資料 60-05	日中韓炉物理国際会議 RPHA2023 の開催結果報告
資料 60-06	第55回炉物理夏期セミナー開催計画
資料 60-07	2024年秋の年会部会企画セッション検討状況

以上